

対象年度	令和 3年度		総合計画実施計画策定及び行政評価シート					事務事業名	市内巡回バス運行事業			予算事業名	市内巡回バス運行事業費		
予 算 科 目	会計	01	款	項	目	事業	要求区分	根拠法令							
			02	01	16	1101	経常経費								
総合計画体系	2安全で住みやすさを実感できるまちづくり(都市・環境)							事業の区分	主要事業						
	2-3便利で快適に移動できるまちづくり(道路・公共交通)								重点事業						
	②公共交通ネットワークの強化							担当課係等	企画政策課						
事業期間	3交通弱者等の交通手段の確保								公共交通整備係						
【めざす姿(意図・どのような状態になるのか)】							【事業開始のきっかけや他市の状況など】								
公共交通として安定した運行を図る。							市内を運行していた民間路線バスが廃止され、その公共交通空白地域の補完のため、平成16年5月、市政50周年事業の一つとして試行開始された。								
【手段(事業内容・どのようなことを行うのか)】							【対象(だれに対して・何に対して行うのか)】								
<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域公共交通会議の運営</li> <li>・交通弱者である高齢者等の日常的な公共交通手段として、市内病院や公共施設等を結ぶ8路線を設定し、休日等を除き、市内巡回バスを運行する。</li> </ul> ⇒令和2年10月の民間委託を機に、土曜日の運行を開始しサービス拡充を図る。							市内を移動する方								
							【事業をとりまく環境の変化】								
							試行であることと、当初想定される主な利用者が高齢者ということと、高齢福祉担当で事業を実施してきた。しかしながら、利用者の多様化が進み、路線及び運行ダイヤにおいて充実してきており、市の公共交通の一つとなっている。 安全性の確保、民業圧迫、サービス拡充を図るため、令和2年10月から巡回バスの運行管理を民間委託する。								
【令和3年度 事業内容】			【令和4年度 事業内容】			【令和5年度 事業内容】									
市内巡回バスの安定運行 老朽化した車輛の更新			市内巡回バスの安定運行 老朽化した車輛の更新			市内巡回バスの安定運行 老朽化した車輛の更新									

■事業費

		R01年度	R02年度			
財 源 内 訳	国庫支出金	0	0			
	県支出金	0	0			
	地方債	0	0			
	その他	0	0			
	一般財源	12,539	24,474			
歳入計(千円)		12,539	24,474			
歳 出 内 訳	節(番号+名称)	金額(千円)	金額(千円)			
	10 需用費	2,804	1,699			
	11 役員費	167	119			
	12 委託料	9,500	22,554			
	13 使用料及び賃借料	48	69			
	18 負担金補助及び交付金	0	20			
	26 公課費	20	13			
歳出計(千円)(A)		12,539	24,474			
伸び率(%)			95.18			
備考	総合計画79ページ 予算書79～80ページ					

# 令和元年度行政評価シート

## ■指標

種類	指標名	単位		R01年度	R02年度	R03年度
活動 指標	巡回バス運行回数	回	目標	8,981.00	10,746.00	10,746.00
	年間の巡回バス運行回数（臨時便は含まず）		実績	8,644.00	0.00	0.00
			目標	0.00	0.00	0.00
			実績	0.00	0.00	0.00
成果 指標	巡回バス利用者数（延べ人数）	人	目標	27,000.00	29,000.00	30,000.00
	年間の巡回バス利用者者延べ人数		実績	24,398.00	0.00	0.00
			目標	0.00	0.00	0.00
			実績	0.00	0.00	0.00

## ■事業評価

必要性	事業の必要性	A 必要性は高い	市内の医療機関、金融機関、スーパー等へのアクセスの確保や移動手段として必要性は高い。
妥当性	実施主体の妥当性	C 見直す必要がある	車両の安全管理、安定運行、乗務員の確保を図るため、民間企業へ業務委託が必要である。
	手段の妥当性	A 妥当である	市民の移動手段として幅広い方が利用できることから、事業実施の手段としては妥当と考える。
効率性	コストの効率性・人員効率	C 改善の余地はある	シルバー人材センターから乗務員の派遣を受けており、現時点でのコスト効率性は高い。しかしながら、市直営での事業実施は、整備管理者等の配置や運行安全性の確保の面で課題があり、人員効率は良くない。
公平性	受益者の偏り	B どちらとも言えない	誰でも利用できるため偏りは見られない。一方、無料運行に関して受益者負担の観点からは、料金を取るべきとの意見もあり、今後検討が必要である。
有効性	成果向上の余地	A 上がっている	利用者数は増加傾向にあり、事業成果は上がっているといえる。
進捗度	事業の進捗	A 順調である	令和2年10月から運行管理業務を民間委託する。

総合評価 上記評価を踏まえて事業全体について評価し、問題点・課題等を指摘してください

乗務員の確保  
安全管理の徹底  
他公共交通機関との競合（民業の圧迫）

対応策提言等 この事業を今後どのように改善・改革をしていきますか

巡回バス事業の安全管理が課題となっている今、市直営での事業実施は限界を迎えつつあり、令和2年10月から運行管理を民間へ委託することになった。今後は、市内巡回バスの運行を中心として、ラストワンマイルの市民の足を確保するために、様々な形態の移動手段を検討していく必要がある。

## ■方向性

1次評価（1次評価者として判断した今後の事務事業の方向性（改革・改善策））

拡充（人・モノ・カネ等の拡充）
  改善改革しながら継続
  現状のまま継続（改善・改革なし）
  統合・新規事業への展開
  縮小
  休止
  廃止・終了
  予定どおりの要求
  一部改善の上要求
  今回は見送り
  その他の処置

方向性の具体的内容

市内巡回バスの安定運行に加え、新たな公共交通システムについても検討を進める。

2次評価（2次評価者として判断した今後の事務事業の方向性（改革・改善策））

拡充（人・モノ・カネ等の拡充）
  改善改革しながら継続
  現状のまま継続（改善・改革なし）
  統合・新規事業への展開
  縮小
  休止
  廃止・終了
  予定どおりの要求
  一部改善の上要求
  今回は見送り
  その他の処置

企画調整会議の意見・考え方（1次評価者と同じ場合も記入）

上記評価のとおり。